

メディアセンターの主な出来事（平成25年度）

メディアセンター本部

1. HathiTrustへのデジタル資料データ登録

米国の大学図書館により運営されるデジタル化資料の共同アーカイブHathiTrustに慶應のデータ約8万冊分が2014年2月に登録された。対象となったのは、2007年から2010年にかけてGoogleブックス図書館プロジェクトでデジタル化した、三田メディアセンターの和装本を中心とした蔵書のデジタル化データである。

2. 大学図書館電子学術書共同利用実験プロジェクトの終了

2011年度で終了した電子学術書利用実験プロジェクト（慶應義塾大学が単独で行った実験プロジェクト）を引き継いで、2012年に開始した8大学（東京大学、名古屋大学、大阪大学、神戸大学、奈良先端科学技術大学院大学、福井大学、立命館大学、本学）による同共同利用実験が2014年3月を持って終了した。3月20日開催のシンポジウムにて締めくくりの成果報告を行った。

3. KEIO大学図書館国際フォーラムの開催

2014年2月28日に「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版Shared Printの可能性～」と題するフォーラムを開催した。国内外の講師による講演、パネルディスカッションを行い、主に他大学図書館関係者を中心に116名の参加者を得た。なおこのフォーラムはOCLC Research Library Partnershipに長年加盟してきている成果を国内に向けて還元することを目的の一つとして開催した。

三田メディアセンター

1. ルールの緩和およびサービスの拡大

これまでのルールやサービスを見直し、以下のようにルールの緩和あるいはサービスの拡大を実施した。

- (a) 飲食ルールの緩和（全面禁止から密閉容器に入った飲物の閲覧席での飲用認可へ）
- (b) 館内携帯電話利用ルールの緩和（全面禁止か

ら利用可能場所設置へ）

- (c) 閲覧席における携帯電話等の充電ルールの緩和（禁止を解除）
- (d) 持ち込みPCのルール緩和（持ち込み可能エリア拡大）
- (e) 4階雑誌室の学部生入室手続きの撤廃（入出記録帳を廃止）
- (f) 土曜日のILLサービスの時間帯の延長（午後のみから終日（8:45～18:00）へ）
- (g) オンラインによるリザーブブック申請受付開始（法務研究科以外にも拡大）

2. スペシャルコレクション担当の新設

これまで「閲覧担当」の下にあった「アーカイブ室」を、「貴重書室」との業務連携緊密化を目指して、新設した「スペシャルコレクション担当」の下に置いた。同時に担当管理職が「レファレンス担当」と兼務し、主題専門性での連携を目指す組織改編を行った。

3. プロモーション強化

過去の展示会図録等の販売ブースを来館者の目を引く展示室の外側に設け、図書館の出版活動を明示的に示す空間作りを行った。同時により多くの流通を目指し、多量の在庫を抱えた過去の図録の販売価格を値下げした。

4. 慶應義塾関係資料の電子化完了

前年度から実施していた、全44誌の慶應義塾発行の逐次刊行物の電子化を完了し、館内の専用PCで利用できるようにした。

5. 出版物

これまで年8回刊行していた情報誌「三田メディアセンターニュース」の内容及び出版形態を見直し、読み物的な記事を中心としたフルカラーの広報誌「知識の花卉:三田メディアセンターだより」(年2回発行)として4月より刊行を開始した。またその他に下記を刊行した。

- ① 「ドイツ語雑誌解題」(文献シリーズNo.32)
- ② 「『百科全書』情報の玉手箱をひもとく～ドニ・

ディドロ生誕300年記念」(第25回慶應義塾図書館貴重書展示会図録)

6. その他のトピック

- ・職員による新館の防災訓練の実施。
- ・AVブースにBlu-ray再生環境を追加するとともに、モニターをブラウン管から液晶に変更。

7. 寄贈資料の受入(主なもの)

- ・「岡本理研ゴム株式会社50年史」他社史55冊
- ・「伝世叢書」全123冊
- ・「Romische Veduten/Hermann Egger」他7冊
- ・アルベルト・アインシュタインの実筆原稿、書簡等26点

日吉メディアセンター

1. 読書推奨

- (1) 読書のすゝめ展示第18回～19回を実施した。
- (2) 貸出ランキングを活用した『これ読んだ?』コーナーを新設し、4つのテーマで展示を行った。
- (3) 8月1日に学生8名による選書ツアーを代官山蔦屋書店において実施し、234冊を選定した。

2. 情報リテラシー教育ならびに「学習相談」の推進

- (1) オリエンテーション、ガイダンス、セミナーは合計197回、受講者数は9,414名であった。
- (2) 情報リテラシープログラム内容点検のためのフィードバックを教員および学生から受け、授業内容に反映させた。
- (3) レファレンスデスクの表示を「スタディサポート」に改めた。(“レファレンス”“学習相談”“ITCスチューデントヘルプデスク”の三機能の総称)
- (4) 学習相談デスクは、3分以上の相談件数は233件、3分以下は214件で前年度比6%増となった。
- (5) 5月、11月、12月に学習相談員による「レポートの書き方」や「書評の書き方」などのセミ

ナーを7回開催し、116名の参加があった。

- (6) 12月5日に学習相談員、理工学のS-Circle、SFCのWRCの合同トークセッションを日吉で開催し、Ustream配信も含めて多数の参加者を得た。

3. 書庫狭隘緩和策

- (1) 9月と2月に、雑誌バックナンバーを山中資料センターへ移動した。日吉図書館内での資料再配置を行い、一般図書の配架場所を確保した。併せて雑誌の保存年限の見直し、他地区との調整を行った。
- (2) 2000年以降貸出回数が1回以下のものを中心とした除籍作業を開始した。

4. 館内工事

館内案内サイン新設、3階東閲覧室南側床上げ工事、2階東閲覧室北・3階東閲覧室南北電源コンセント増設、2階東閲覧室・3階東閲覧室床カーペット張り替え、2・3階西閲覧室・雑誌室椅子(208脚)クロス張り替え、2階バルコニー椅子(30脚)買い替え、1・2階ネットワーク修繕(日吉ITCの事業)を行った。

5. 協生館図書室

- (1) 協生館図書室メールマガジンの配信を開始した。(11月～)
- (2) 貸出調査に基づく図書除籍を開始した。
- (3) 白楽サテライトライブラリーに除籍を予定して配置していたHKBS所蔵資料の除籍作業が完了した。

6. その他のトピック

- (1) 入館者数は前年比3.5%増の913,582人で、2009年以来の90万人超であった。
- (2) 館内施設の名称変更
 - ・レファレンスデスク → スタディサポート
 - ・インターネットエリア → PCエリア
 - ・新聞閲覧コーナー → 新聞雑誌コーナー
 - ・雑誌室 → 北閲覧室
- (3) 日吉図書館公式Twitter公開 (3月～)

信濃町メディアセンター

1. 利用者層別スタディライフ調査の実施

利用者層別の利用実態や要求を把握するため、2013年は病院の専修医及び研修医（2年目）を対象に日記式質問票とインタビューによるスタディライフ調査を実施し、計100名から回答を得た。今後のサービス展開や広報の改善に役立てることとなった。

2. 保存資料の見直し

書庫狭隘対策も兼ねて保存のための蔵書評価を行い、電子的に入手可能な雑誌、特に国内英文誌のバックナンバー、図書館学関係雑誌のバックナンバー、山中資料センター配架のレファレンス資料バックナンバーほか、単行書を含む8,240冊を除籍・廃棄した。

3. 教育IT化推進事業への協力

2013年度に始まった医学部2年生へのiPad配布と教育IT化推進事業への協力を求められ、日本語教科書のデジタルコンテンツ利用実験を行った。医書出版社3社へ依頼して各社から各1冊のコンテンツの無償提供（半年～1年）を受けた。電子教科書利用とiPad利用に関するアンケートとインタビューを学生課と共同で実施し、学生からのフィードバックは出版社へ還元した。報告はメディアセンターホームページに掲載・公開した。

4. 利用者教育

研究大学強化促進事業の一環として、トムソンのResearcherID登録推進のための秘書向けセミナーを開催した。

5. 貴重書の寄託

解体新書、解体約図、各国語クラムス（計7点）を、目録上の所蔵は北里記念医学図書館のまま、保存と専門家による利用支援のために三田貴重書室へ寄託した。これらの特筆すべき貴重書は慶應義塾大学医学部教授（医史学）であった大島蘭三郎氏の所持品であり、ご遺族から図書館へ寄贈された蔵書「大島文庫」に含まれていたものである。

6. 開館体制

2011年以降、2日間だった夏期臨時休館を2013年

は7日間（月曜～日曜）とした。

7. 施設改修

カウンターの取替え、及びカウンター周辺の改修工事を実施した（間接経費追加申請）。

理工学メディアセンター

1. 学習環境の整備と情報発信の強化

- (1) 創想館地階自習室の日曜開室試行
授業期間中の毎週日曜日13:00～21:00に理工学部所属者を対象に日曜日の開室を実施し、計795名が利用した。
- (2) 全館のサイン・掲示板の見直しを行い、フロアマップ・書架サイン（本館1階）の改訂、入口へのサイン・掲示板設置を行い、1階雑誌書架に側板をつけた。
- (3) 老朽化した本館の空調設備を更新したほか、プロジェクタの館内貸出サービスを開始した。
- (4) 2014年1月よりツイッター（@scitechmckeio）を開始し、臨時のお知らせ・サービス・イベントなどの周知を強化した。
- (5) 機関リポジトリΣStarに『慶大工学部新聞』を登録したほか、理工学部紀要を電子化しKOARA搭載の準備を行った。

2. 学習支援サービスの充実

S-Circleの学生スタッフ19名と連携し、342件の相談業務を行ったほか、展示・サイエンスカフェ等の実施に加え、理工学部1-2年生へ学習支援を広げるため、学期末試験期間に日吉メディアセンターで相談業務を行った。（7/25、1/21）特記事項として、学びの連携トークセッション「なぜ慶應の学生は勉強しないのか？」に学生スタッフ2名が日吉学習相談員、SFCライティング&リサーチコンサルタントとともに登壇した。（12/5）

3. 理工学部創立75年記念事業への協力

2014年春刊行予定の『慶應義塾大学理工学部75年史』編纂委員会の事務局として、年史の制作に協力するとともに、創立75年関連事業へも協力した。

また、『慶大工学部新聞』を電子化しリポジトリStarに搭載した。また記念展示として「写真で辿る理工学部の歴史」「福沢諭吉とサイヤンス」を館内で開催した。

4. 蔵書

- (1) 雑誌資料の再配置計画準備のため、製本雑誌の蔵書点検を行ったほか、大学紀要などを除籍した。
- (2) KOSMOSに目録データのない数理科学科図書室所蔵図書23,600冊のうち、11,943冊をメディアセンター本部で遡及した。

5. その他

パネル討論会として「求められる科学研究者の姿勢—研究倫理を考える—」(6/13)「学生パワーを活かす 知と学びの場の創生」(11/14)を開催した。

湘南藤沢メディアセンター

1. 施設・設備の更新

メディアセンター(M館)1Fラウンジに「慶應の水」を含む飲物(ペットボトル)の自販機を設置した。

メディアセンター(M館)内壁面の塗り替え、1階床の補修、一部の閲覧用椅子の更新を行ったほか、1階AV資料用書架2台を撤去した。

2. Webを使った情報発信

看護医療学図書室のWebサイトを全面的に見直し、リニューアルした。デザインはメディアセンター(M館)のサイトとの共通化を意識した。

3. サービス・企画

春学期の授業「資料検索法」をメディアセンター職員2名が講師(非常勤)として担当した。

本格稼働から2年目となったライティング&リサーチコンサルタントは、メンバーを3名から5名に増やし、専門分野が多岐になり、学生への支援が充実した。利用者の数も前年の2倍となった。

AVホールで16ミリフィルム上映会を3度にわたって開催し、デジタル世代の学生にアナログフィ

ルムの世界を体験してもらった。また、湘南藤沢キャンパスの卒業生が制作し学外で受賞歴のあるドキュメンタリー映画の上映会も行った。いずれも教員による解説付きである。

台風や大雪等の影響に配慮した開館時間の短縮・臨時休館が多く、年間で8回にのぼった。

4. マルチメディア環境の充実

国内の大学図書館で初めてメディアセンター(M館)内に3Dプリンタ4台を設置、「ファブスペース」として4月から利用サービスを開始した。日々の管理・運用は学生のAVコンサルタントが担当している。

大型の3Dモニタを設置、3D映像が撮影できるビデオカメラの貸出を開始した。

5. 急激な円安への対応

急激な円安の影響により、海外の電子ジャーナル・データベース等に対する支出が大幅に増加することが見込まれた。そのため、図書の購入をやや減らすとともに、利用頻度の低い電子ジャーナルや電子で閲覧可能な冊子体雑誌の契約を中止した。その結果、図書資料費は約350万円の赤字となったが、図書予算全体では黒字となった。

薬学メディアセンター

1. 利用者支援

- ・(社会人聴講生を除く)全利用者身分に対して貸出冊数上限を撤廃した。(4月)
- ・KOSMOS(蔵書検索システム)に薬学部教科書・指定書情報をタグとして入力し、一括検索できるようにした。(4月)
- ・専門分野以外の図書について薬学部生に港区立みなど図書館の活用を促す試みとして、薬学メディアセンターWebサイトからのリンク表示、および館内での港区立図書館の広報物配布・掲示を開始した。(6月)
- ・「教養雑誌」、「医療人GP資料」、「がんプロ資料」のリストを作成してWebサイトで公開した。(1月~2月)
- ・サービス内容や各種資料検索ツールなど情報入

手への誘導機能を高めるため、薬学メディアセンターWebサイトのうち記述を主としたページを Web作成支援ツール「LibGuides」を利用して再構成した。(3月)

2. 利用環境整備

- ・ 3階書架の全ての書架棚板に資料落下防止用テープを貼付した。(4月)
- ・ 4階電動書架の総合点検を実施した。(5月)
- ・ 利用者用情報検索端末をリプレースした。(5月)
- ・ 館内での飲食規則を周知するため、生協購買部に協力を依頼し、店舗内での「薬学メディアセンター飲食ルール」の掲示を開始した。(6月)
- ・ グループ学習室の椅子をキャスター付きのものに買い替えた。(7月)
- ・ グループ学習室のPC画面共有および視聴覚資料閲覧用に使用していたブラウン管テレビを液晶テレビに買い替え、ブルーレイディスプレイを新設した。(3月)

3. 蔵書整備

- ・ 共立薬科大学との合併にともなう雑誌書誌・所蔵データの整備を完了した。(7月)
- ・ 蔵書点検作業の外部業者への委託を試行した。(10月)
- ・ 国試対策委員会教員との打ち合わせ内容を元に、国試過去問題集と解説集の購読タイトルを整理した。(11月)
- ・ 学生からの教養雑誌コーナー配架誌の見直し希望を受けアンケート調査の結果を参考に数誌を入れ替えた。(11月～1月)

4. 塾外活動

- ・ 日本薬学図書館協議会2013年度関東地区当番館を務め、2回の地区会議、3回の協力館会議を主催した。(5月, 12月, 2月)
- ・ 「 関東地区研究会世話館として例会(9回)と見学会(1回)を開催した。